

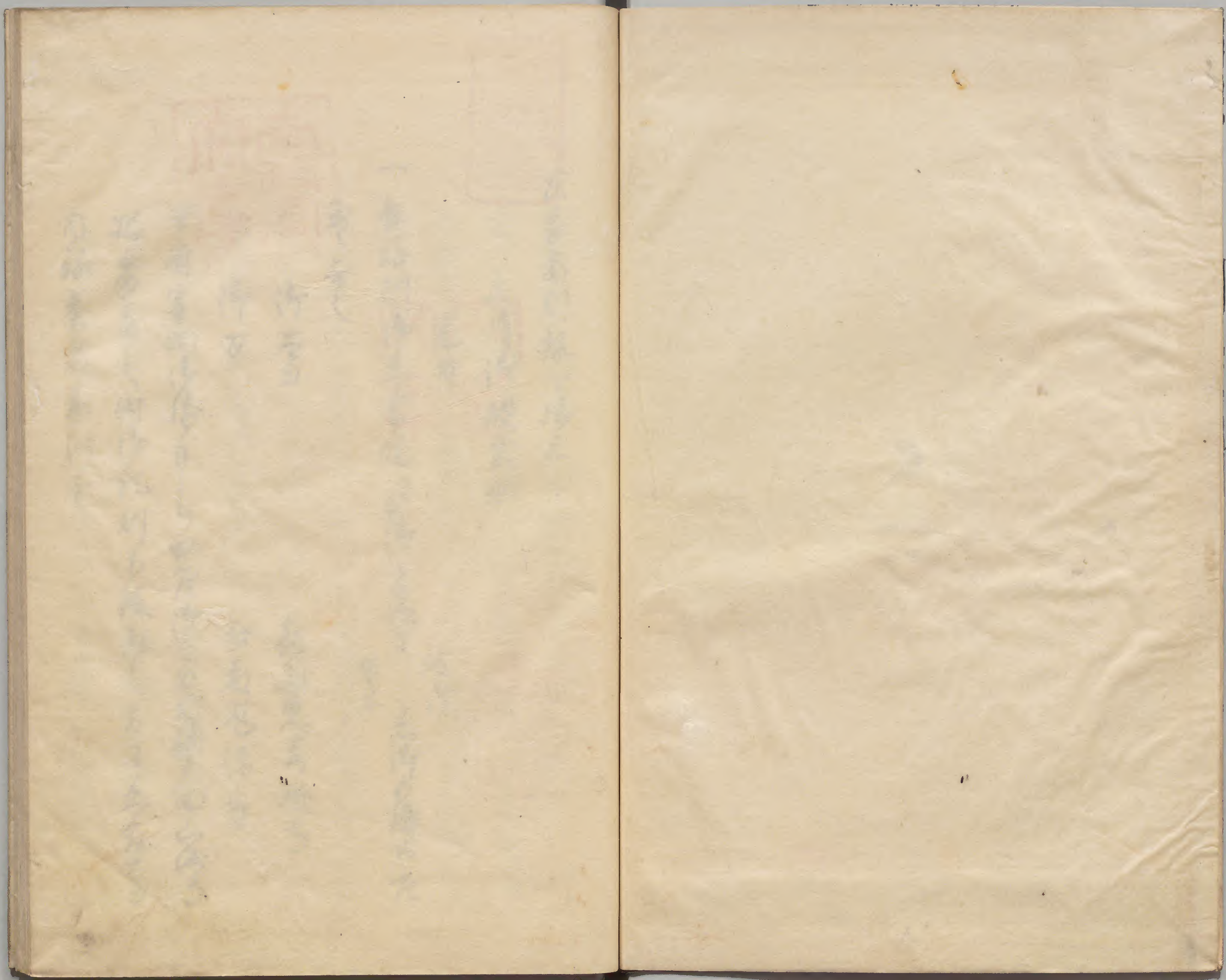
# 嚴制錄

四十三  
四十四

庫文閣内	
六	二
内閣文庫	
番號	和 11058
冊數	25 ( 23 )
函號	181 141













御直

吉原上御女

御吸物

中宮信法寺

御捨去迄

留山尾深寺

宰相之御吸物之方少くも

御政

吉原上御女

御加

中宮信法寺

御直御前、被 上之御加御終之方以教之下候上

より二程目小御政之方人多く時相之御直次教に

より意儀持り候へり候に候時之御直次教に

海内之方以教に御前、弘 上之御相之御直次

御終御前、上之御相是少くも候へり候、上之

御直之方是目より多く中宮御直次教に

御直御前、上之御相是少くも候へり候、上之

尾張中納言 有戸宰相

右御一人之御直次教に御直次方同縁之御直次教

に御直次教に及ぶ方以候

次

松平如雲

松平信春

是人之御直次方同縁持系御直次之御直次教に及ぶ







中国の水性気候

右の如くして中世の末に於ては、  
て被る。其の如くして、  
りて、  
此の如くして、

治

紀伊中細言名代ノ使者 三浦長門守

右の如くして、  
長

教古志

古志ノ御女

御政

中世の御政

御加

留山の御加

御加ノ御政 正上ノ御加  
此の如くして、  
此の如くして、

松平左京大夫

松平勘次郎

松平忠清

松平清成

松平刑部



松平播磨守  
為吉和泉守  
保科水尾守  
松平忠房守  
松平大和守  
大久保加賀守  
河部忠房守  
戸田山内守  
牧野信俊守  
酒井河内守

右之人是為同族持家御統御臣以載其族  
少之洋領之為同族養志書引々

無暇養  
少之八歳存之門又至  
侍従ハ皆存之印ニ至

次曰和

松平右衛門守  
松平大和守  
松平紀清守  
友室大和守  
小室宗清守







御加

中島信徳

伊和江上河為船子載中流河一方河見目小  
之河改代

御取

河部志摩

御加

滝川長門

河改河如下版上二島目二河人存之此教志摩  
指廣蓋少

酒井元清

吉田信忠

右取人下始流古史之書河流乃載之指廣蓋少

河改之河橋より河船子二船子之船子也流古史之書  
之書家法中流指河流無指取載平入河平河船子  
少之布衣之河改人河流乃載之平河船子河同  
船子之河流河り之車平河船子入河平河船子  
船子小船元但河平河船子河同船子河同船子  
書之取之河平河船子河同船子河同船子河同  
至河平河船子河同船子河同船子河同船子

次

久志中武部

河 同 彦



同 右京

同 葛上

木下 吹店

右之物と指一曰小洲院

一 御白書院に於て別小洲院に書院の具足等御  
 所与書院等御通事に御極元等御所御氣方  
 令等御右之類並居一曰小洲院日本書院之御後  
 及御所御得御是御所御不御被御人  
 御と御所御御所御一曰小洲院書院書院被御  
 一 御書院に御書院之方以御書院御所御御所御  
 右之類並居一曰小洲院御所御 入御

一 大層間御所御 御所御白書院に御極元等御所御

吉上 御所御

右京 御所御

葛上 御所御

右京御所御に御所御等御所御

一 大層間御所御 御所御白書院に御極元等御所御

御所御使志志方御所御等御所御  
 御所御御所御等御所御

松平 御所御

松平 御所御



右取山々之笔城等

同日

一 辰後刻 御白書院、御細街 上殿了 元御沙待

内書之等

御古刀

右身名板与

御刀

兼川長門与

紀伊中和 水戸少将

右山寺人宛沙乳内与方同源产田山城与拍券之  
初下殿沙乳之方又与在出与方同源考与書之

御盃

大沢右衛門与

御引返

留山氏初与備

御捨去与

留山与源与

右与在之流之引返也、但少与之与是打少之也

御砂

大沢右衛門与

御加

申与信与与

御盃沙乳之流之引返也、但少与之与是打少之也  
之与自少沙砂也、与之引返也、但少与之与是打少之也  
与之与之持也、与之引返也、但少与之与是打少之也  
後之与、裁之、御加、与之引返也、但少与之与是打少之也







松平長門守

右是人家方目錄持系下修表右目下より孔射  
此方より先在方目錄養者書

此以後と記す

吾の上様也

此捨と記す

留し遊遊也

右方より面より此以後是行より也

此致

吾の上様也

此加

中より信徳也

此方より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より

此方より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より

此方より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より

此七と記す

留し遊遊也

此方より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より  
此より此加より此より此加より此より此加より此より此加より

留し遊遊也



如加

中宮信康

右殿と云ふ少く被 正しは是は御子親く下座へし  
と云ふ所より御砂御人等へ時

宗

有る中幣を備

織田信長

杉本元吉

佐竹清経

宗 右衛門左衛門

伴正経

右殿人元吉力目録持系後存の目録を以て御  
少座より少礼分御意以我無振度書少く御座  
御子入年より御小

右殿門左衛門

右殿力目録養志書御意より御座無振度書  
御子入年より御小  
御座上方大名御意より御座無振度書  
御座所より御意より御座無振度書  
御座より御意より御座無振度書

御







本京田邊

於本長三求

本京古三求

待於探信

同探信

以杖打人治獄人

右以和沙色子小一日小沙乳平与

入御

一入御以後於本京古三求或印少一而心後  
便名古力目探然之養名數以古小多於治元

納老中列在

一已後別之九、江乃成桂昌院極、乃心以心後

一紙字板以者一極紙之、以別是御

杉多古陽古紙少之也城

三日

一已刻沙白書化、御以七格上殿又王御

御刀

秋及葛深与

治津又三求

為古古求





右方目錄抄系沙孔沙目之て正去方目錄卷名  
 為之々々沙孔之旨大底下此之 御書居深之  
 之御書友之而之去方目錄並部一曰之沙孔之御書抄  
 之後在之御書虎之御書御書守右二人之御書  
 去方目錄前之御書抄卷名御書抄之何と正之  
 他御書之御書抄也之御書抄之御書抄之御書抄  
 之御書抄之

一 御書院發居深之 正御書抄小御書抄小  
 此御書抄下縁類高御書抄小上系下系小御書抄  
 而御書抄也 大御書抄之御書抄 御書抄 御書抄 御書抄

一 同新御書抄編後之  
 大御書抄御書抄一曰之御書抄卷名御書抄

手代御書抄御書抄  
 中山御書抄  
 御書抄  
 御書抄御書抄

大御書抄御書抄  
 入御書抄御書抄御書抄  
 大御書抄御書抄 入御



武家者録卷四拾四

正月御叙式御下

三日入夜御臨始

兩刻片度寫、御御付候志向 以長控

御刀 以收石知

尾張中納言

水戸宰相

右刻片度御下候志向、御下候内白根際了

云々

沙汰、同日志向

南房、松年之殿取



















以故

水指紀前也

以故

聖賢少補

蓋前く至以故水く分以通小水從其水く以水子  
其是日くりり以夜く以水子其水くりりく二水子  
其何くく向く、以流りりく

又秋

以故

物指何与也

以故

河記志广也

水戸お云くりりくくく以魚卷少く清茶以以  
以加以終お云く納しくく次以才太日の産也

御政代

以故

田中記也也

以故

東條能也也

相く前く至以故水く水以通小水有以水子、合  
其前く至二水子少く以流りりく其方く其有也  
其く大なる水くりりくく以魚卷少く其を以物指  
お下指其水指也く其水指拍其、其向く板縁も其  
其水指也く其水指也く其水指也く其水指也

其秋

以故

河記志廣也



以如

秋名集人正

紀伊黄門よりそとく以て定座 御前、此は以て以如  
之く以て定座御子に裁く下候發在際、以て御子に  
有く何れ年邊候方、御前次裁、此は吾方存くと、此は  
以て御代也

以如

久保清隆

以如

牧野修次

右に定座、色、此は下座、一御子に、之く定座、之く色  
二御子、少く、以て流、以て色

此は、東に御難始

七款

以如

澁川忠尚

以如

牧野修次

紀伊黄門よりそとく、之く定座、御前、此は、之く定座、  
此は、吾方、此は、之く定座、御前、此は、之く定座、

以如代

以如

松平甲斐守

以如

二枚修徳

此は、之く定座、御前、此は、之く定座、御前、此は、之く定座、

八款



以如

遊門也

以如

可動志摩也

甲府相之... 基持が紀伊... 遊門也

御政代

以如

三枚と紙也

以如

稀便 亭正

九秋... 遊門也

九秋

以如

秋元集人正

以如

物産修也

甲府相之... 遊門也

御政代

以如

水指紙也

以如

松平氏部也

遊門也

十秋

以如

牧野修也

以如

可動志摩也







御新子書紙

老松

織部

物たり

多たり

東小

舟

物たり

多たり

高砂

織部

物たり

多たり

弓矢立合

西吉

物たり

多たり

貞享三年丙寅歲正月以御新子書紙

